

## 全国養護部門の取組

棟方 百熊

### はじめに

本部門は、養護教諭養成の質的向上と学校保健に関する学術の発達を図り、我が国教育の振興に寄与することを目的として、養護教諭養成に関する調査ならびに研究、協議会、研究集会等の開催、会報等の発行を主な事業として活動している。

### 研究委員会の活動

本部門の最重要かつ最大の特長は、研究委員会の活動が活発であり、2年に1回程度の頻度で研究テーマに関する報告書を発行してきたことである。この報告書は、これまで、本部門の構成大学だけでなく、全国の養護教諭養成課程やそこで教育を担う大学教員に参照され、また、文部科学省等と様々な折衝を行う際の根拠資料等としても活用されてきた。

研究委員会は、1993年の発足以来、養護教諭養成を担う国立教育系大学として、養護教諭の資質向上のための養成教育のあり方を中心に研究を進めてきた。特に、2003年からは「養護教諭の資質向上を目指したモデル・コア・カリキュラム」を開発し、カリキュラム改革の提案を行ってきた。2017年からは、養護教諭の職務の科学的な検証に焦点をあてて研究を行ってきた。2017-2018年度には、「科学的根拠(エビデンス)に基づく養護教諭の職務に関するガイドライン作成に向けての文献研究」、2019-2020年度には「養護教諭における研究活動の現状と課題」に取り組んできた。これらの研究成果から、養護教諭の活動について、科学的に検証した研究の蓄積は少ないが、様々に展開されており、養護教諭は研究活動に熱い情熱を持っていることなどを明らかにしている。今後の養護教諭養成において、養護教諭の研究遂行力の向上は重要な課題の一つといえる。

今期(2021年4月～2023年3月)の研究委員会では、2017年から2期にわたる本研究委員会の研究成果をふまえ、附属学校園養護教諭との共同研究による実践研究を進めていくことが重要であるとの共通認識を持って、研究テーマ1「附属学校園における実践研究の推進」に取り組んだ。附属学校園養護教諭と大学教員が協働して実施した実践研究についてのWebアンケート調査や報告書を分析することによって、附属学校園における養護教諭の実践研究は、広く一般に公開されている状態ではないが、会員大学と附属学校園の共同による様々な展開事例があることがわかった。この成果を報告書としてまとめ、全国養護部門に所属している大学の会員および当該大学の附属学校園養護教諭に発信した。この報告書が、附属校園と大学の共同研究を進めるモチベーションとなり、養護教諭との新たな実践研究につながることを期待している。また、すでに取り組んできた皆様の研究の発展、推進に向けた体制整備等の参考にしていただきたいと考えている。

また、次期研究委員会への継続テーマとして研究テーマ2「教職大学院における養護教諭の育成」について、まず現状を把握するための調査を計画するなど、養成段階における養護教諭の資質・能力の形成に関する研究を進めているところである。

## 理事会・総会の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年度の理事会・総会をメール審議とした。2022年度の理事会・総会は、意見交換を行うことができるようオンライン会議方式で実施した。各大学の現状等について、情報交換することができ、コロナ禍における養護実習の進め方等の工夫を共有した。

## 会報等の発行

例年、年度当初に会員名簿を発行し、年度末には会報を発行している。今期は2022年5月と2023年2月に会報を発行した。会報には、会議の報告、事業計画及び事業報告、予算・決算報告のほかに、新会員(2022年度は4名)の自己紹介を掲載し、会員の相互理解の促進に努めている。

## おわりに

新型コロナウイルス感染症等の感染症対策、GIGAスクール構想等による生活全般への影響など、多くの新たな課題に対して養護教諭の活躍が期待されている。国立大学の教育学部で養護教諭の養成を担ってきた者で構成される本部門の果たす役割は大きい。今後も、不断に養護教諭の資質・能力の向上方策を検討するとともに、養護教諭が学校で着実に役割を果たすことができるよう、その時々様々な課題に先導的に取り組んでいきたい。

(令和4年度全国養護部門代表・岡山大学准教授)